

# あけ

## 平成26年4月1日開学



入学式

平成26年4月4日

新入生57名を迎え、記念すべき開学初年度の入学式を挙  
行しました。式典は、未来への夢を抱き、希望に満ち、少し緊  
張した表情で志を新たにした学生で包まれていました。交野  
学長から「皆さんと教職員の手で大学を成長発展させ、社会  
に誇れる校風を作り、4年後には知性と品格を備え57人全員  
が国家資格を得て巣立っていくことを切望します」と式辞があ

りました。これに新入生を代表して西村紗姫さんが「広く深い  
専門知識と技術を習得するとともに、学生が能動的に行動し、  
活気あふれる大学をつくっていきたい」と宣誓しました。

学びの喜びと厳しさ、そして創造の醍醐味を学生と教職員  
が共に享受しつつ、素晴らしい大学を目指していきます。

## 『すずかけ』創刊によせて

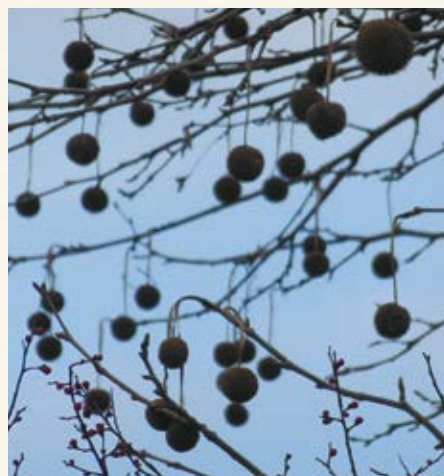
学長 交野 好子

敦賀市立看護大学の庭に年輪を重ねた大きなプラタナスの木が校舎を包みこむようにたっています。このプラタナスは実の垂れ下がる姿が山伏の着る「篠懸」についている房に似ていることから「篠懸または鈴懸」と呼ばれるようになったそうです。実の外は著しく固いものに対して、内は綿毛のように柔らかく繊細です。篠懸の木に下がる実のように内なる世界は柔軟であってほしいと思っております。柔軟な思考の下、状況に応じた判断と行動がとれる社会人になってほしいという願いを込めて本学のニュースレターを『すずかけ』と命名いたしました。

平成26年4月4日に57名の新入生を迎え開学いたしました公立大学法人敦賀市立看護大学は『すずかけ』創刊号を発刊することができました。

本学は将来の地域医療の担い手となれる高度な専門知識と技術、使命を果たそうとする意欲をもった看護の学生を育てることを目指しております。私共はこうした高い目標を達成するため、日々教育・研究および大学の運営に努めております。

ニュースレター『すずかけ』を通して保護者の皆様や将来入学を希望される皆様、地域住民の皆様、日頃から大学を応援してくださっている皆様に、大学のありのままの姿をお届けしてまいりたいと思っております。『すずかけ』を通しまして大学へのご理解を深めていただきますとともに、大学へのご意見をいただくなど更なるご協力を賜れば幸いです。



## 開学記念講演会・式典

# 学事

(平成26年6月28日)



開学記念講演会での鳥越俊太郎氏

本学にジャーナリストの鳥越俊太郎氏をお招きして開学記念講演会を開催しました。350人ものご来場をいただき立錫の余地もないほど盛況となりました。鳥越氏の実体験を交えた「がん患者になって見えた看護師像」と題された講演に学生も将来の自分と重ね合わせ、熱心に耳を傾けていました。

その後、会場を移して開催した記念式典には、本学の開学にご尽力を頂いたご来賓をはじめ多くの関係者の方々にご臨席を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

## オープンキャンパス

(平成26年8月9日)

一年生の協力のもと本学初のオープンキャンパスが開催されました。当日は悪天候で交通手段も乱れましたが、約120名の方にご来場いただきました。入学試験、学生生活などについて説明の後、模擬講義、看護学演習体験(手洗い演習、血圧測定演習、妊婦体験演習)にも参加していただきました。また、受験に関して個別の進学相談も実施いたしました。参加者へのアンケートでは、「学生さんが親切に笑顔で接して下さったのがとても印象的でした」、「模擬講義や各種体験も分かりやすく勉強になりました」、「この大学に行きたいという気持ちが強くなりました」などの回答がみられ、本学を大変身近に感じていただけたようです。



大学説明会での参加者の様子



血圧測定の演習体験の様子



妊婦体験をする参加者たち

## 2014 聖祭×海凜祭

(平成26年10月4日)

学生により「<sup>かいりんさい</sup>海凜祭」と名付けられた初の大学祭は、<sup>ひじりさい</sup>敦賀市立看護専門学校の学校祭「聖祭」と協同で実施されました。晴天にも恵まれ、受付には開場前から長蛇の列ができるほどの盛況となりました。

今年度のテーマ「新・心・親」～繋ぐ手・踏み出す一歩～には、両校の学生が手を取り合い、新たな環境で、心を育み、地域や仲間との親しみを大事にして同じ目標に歩んでいきたいという想いが込められていました。

「海凜祭」が「聖祭」と同様に地域の方に親しみを呼ばれる大学の良き伝統行事となっていくことを期待しています。



フリーマーケットの様子



ジュースいかがですか？

## 教育紹介

### 生活の援助技術

本学では1年生から、看護専門科目の一つとして基礎看護の科目が始まります。なかでも『生活の援助技術』は演習を主体とした科目で、看護の対象となる人の日常生活を健康的に整えるための、基本的な看護技術を学習します。ベッドメイキングや清拭、感染防止の技術などを通して、相手のことをどのように思いやるのかを学んでいます。演習形式の授業にも少し慣れてきた年明けからは、本学オリジナルの実習衣を着用して演習を行っています。



基本的な看護技術であるベッドメイキング。しわ厳禁！



清拭の演習風景。お湯の温度を確認しながら準備します。



手術用手袋を装着する練習。不潔にならないよう恐る恐る…。

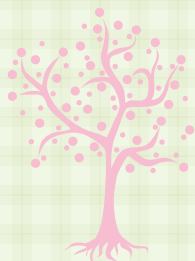
英語や情報科学などの一般教養の科目も2クラスに分け、30人弱の少人数できめ細かな授業を展開しています。PCは情報処理室に授業用の35台、自習室に12台が設置されていていつでも自由に使用できる環境になっています。



一般教養科目：情報科学 授業風景



一般教養科目：英語Ⅰ 授業風景



本学では、地域との交流を深め、地域に寄与できるように学生、教職員共々積極的に活動しております。5月31日に開催されました『福井県障がい者スポーツ大会』をはじめ、6月1日の気比海岸を美しく保つ『クリーンアップふくい大作戦』、9月3日の伝統ある『敦賀まつり』にも参加しました。

私たちは、今後もさまざまな行事に参加し、この地域に根付く大学づくりを目指していきます。

## 交流



福井県障がい者スポーツ大会



クリーンアップふくい大作戦



敦賀まつり

# 環境

本学は、大学教育の目的だけでなく、地域の皆様にも多く利用していただけますようにキャンパス整備を始めました。敦賀市の憩いの場所、そしていざというときの災害時対応ができる拠点の一つとして、地域貢献のための環境づくりを行っています。その一段として平成26年6月30日に『中庭の芝の苗植え』を行いました。大変蒸し暑い日でしたが、学生および教職員総出で、特定非営利活動法人『クラブグリーン』さんのご指導の下、楽しく芝の植え付けができました。植え付け当初まばらだった芝も立派に育ち、9月には美しい芝の中庭になりました。今後も継続して環境整備をしていきます。



指導を受けながら芝を植える学生たち

芝植え作業



芝植え直後の様子

# 災害・救急

一次救命処置  
(BLS)  
講習会

夏季休暇前に行いましたBLS講習会には、多くの学生と教職員が参加しました。BLSとは、一般的に言われています『心肺蘇生法』のことです。私たち、医療者となる道歩んでいる以上、人の命に関わることはこれから少なからずあります。特に長期休暇では、いろいろな事故に遭遇したりする機会が普段より多くなると考えられます。今後もこのような救急・災害に関連した学習会を開催し、知識・技術を向上していきたいと思えます。



教員から心臓マッサージの指導を受ける学生

原子力  
防災  
講習会

敦賀市近隣は原子力発電所の立地地域であることを踏まえ、本学では災害・救急看護を教育研究の重点分野に位置づけしています。特に災害については、医療人として常に意識しておく必要があります。この一環として、平成26年11月26日に福井大学附属国際原子力工学研究所所属、原子力防災・危機管理部門の安田伸宏先生をお招きして『原子力災害』についての講習会を開催しました。基礎的な放射性物質、放射線等について何うとともに、災害時の対応について実演を踏まえ、興味深く聞くことができました。また、11月9日の『敦賀市一般災害訓練』において、本学のブースを設け、参加者に応急手当を体験してもらいました。今後も、地域防災・救急に注力していきたいと思えます。



防護服の説明をする安田先生(右)

# ホンマでっか!! 生活に役立つ科学

**家庭内で心停止が起こると予後が悪い!** 河合 正成・山崎 松美・野沢 和也

成人看護学領域

もしも、目の前で人が倒れた時、皆さんはどうしますか?このような万が一の状況は、誰にでも起こりうります。実は、AED(自動体外式除細動器)の普及も関連して、一般市民によって目撃された心原性(心臓が原因による)心肺機能停止症例の1か月後の生存率は、年々上昇しております。平成25年は11.9%であり、平成17年と比較して、何と1.7倍の生存率となっています。もう少し詳しくご紹介しますと、一般市民に目撃されたが、心肺蘇生が実施されなかった症例の1か月後の生存率が8.9%であるのに対して、一般市民によって心肺蘇生がなされ、かつAEDが使用された場合は、50.2%の生存率なのです。このデータを見ると、普段よりAEDの設置場所をちゃんと確認しておかなければ、と思えますよね。

そんな中、こんな**ホンマでっか!!**な情報が報告されました。『自分の家族の心停止を目撃した場合には、知人や同僚らの目撃に比べて、適切な一次救命処置を実施する確率が低く、結果的に患者の生存率が悪い』というのです…!!具体的には、**心肺蘇生の実施率が低い**、あるいは**実施までの時間が長い**、更には、**119番通報も遅れる**ことの結果であるというのです。どうしてなのか?については、様々な要因が考えられますが、精神的な動揺も関連していると言われます。もしも家族に心停止かなと思われる事態が起こったら…、考えただけでも怖くなると思いますが、そのような場合は、”とにかく119番に電話をかける!!” “心肺蘇生を!!”と頭の中に入れておきましょう。

知っておくと便利な情報を敦賀市立看護大学の教員により紹介するコーナーです!



引用文献  
・総務省(2014).「平成26年版 救急・救助の現状」.  
消防庁ホームページ  
([http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/field\\_list9\\_3.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/field_list9_3.html))  
・金沢大学News Release  
(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/prstrategy/release/pdf/14/141127.pdf>)  
Tanaka Y, et al. (2014) Potential association of bystander-patient relationship with bystander response and patient survival in daytime out-of-hospital cardiac arrest. Resuscitation, 13 : 86C : 74-81. doi: 10.1016/j.resuscitation.2014.11.004.

# 地域・在宅ケア研究センター



地域・在宅ケア研究センターは公立大学法人敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立されました。

本研究センターの事業は地域住民の健康づくり、訪問看護における在宅支援などによる地域貢献、学生の学習活動と地域との連携や看護職の看護実践能力・研究能力支援のための教育、地域の健康評価における健康ニーズ調査などの研究を行うものです。

平成26年度研究等の活動として、地域の健康ニーズを把握するために健康評価を行っております。研究課題は「福井県嶺南地域における在宅医療・看護・介護の需要及びサービスの供給に関する包括的ニーズ調査」「在宅療養初期に在宅療養者及び家族が直面する問題に関する研究」です。また、看護職の実践能力・研究能力支援の1つとして看護研究指導を開始し、研究に必要な知識の学習として6回の講義をスタートしました。

地域の皆様のお役に立てるような事業を展開していきます。

## 図書館だより

敦賀市立看護大学附属図書館は学外の方もご利用いただけます。

### 利用できる方

- ◎敦賀市に在住又は勤務する18歳以上の方
- ◎その他附属図書館長が適当と認める方

### 開館日時

- ◎通常時 9:00～19:00
  - ◎休館日 土曜日及び日曜日 国民の祝日
- ※詳細は本学のホームページを参照してください。

### 貸出

- ◎図書の館外貸出が可能です。ただし、雑誌・新聞・視聴覚資料・禁帯出資料を除きます。
- ◎館外貸出には、「学外利用者証」が必要です。  
※「学外利用者証」の発行を希望される方は、現住所の分かる身分証明書(運転免許証・保険証・職員証)をご持参の上、カウンターへ申し出てください。
- ◎貸出冊数 5冊以内 ◎貸出期間 2週間以内

### 返却

- ◎図書は、必ず返却期限内にカウンターへご返却ください。
- ◎1冊でも返却期限を過ぎた図書があると、新たに図書を借りることができません。



## 学生食堂のご案内

敦賀市立看護大学の学生食堂は一般の方もご利用いただけます。リーズナブルなメニューが揃っていますので、近くにお立ち寄りの際は、ぜひご利用ください。

### 営業時間

平日11:00～14:00 (13:30ラストオーダー)

### メニュー

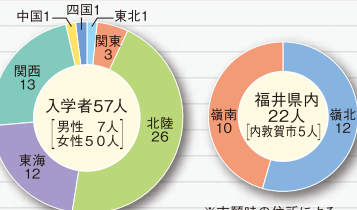
- ◎ 日替り定食500円 (学内者400円)
- ◎ 日替わり麺350円 (学内者250円)
- ◎ カレー500円 (学内者400円) など



※営業時間、メニューは平成26年度のもので、  
※夏季、年末は長期休業する場合があります。

## 入試関連情報

### 平成26年度入学生の地域別内訳



## 編集後記

敦賀市立看護大学ニュースの創刊号をお届けいたします。平成26年4月に開学し、情報・広報委員として地域住民・保護者の皆様、大学関係者の方々に小誌を通じてさまざまな情報を発信していきたいと思っております。私は大阪で生まれ育ち、東京、静岡（浜松）、神奈川（川崎、横浜）と太平洋沿いに移住してきましたが、本学開学を機に初めて日本海に面した敦賀の地へ移り住むことになりました。春、夏、秋と気候もよく、船釣りが趣味である私にとりまして、魚の旨さにも堪能いたしました。しかし、今冬は例年になく雪深く、この歓迎に悪戦苦闘いたしました。雪おろし、雪かきをしなければ車を利用することができないなんて経験したことがありません。起きるが否や窓越しに雪の有無をチェックします。今までこのような苦労は無く、雪国での生活の大変さを痛感いたしました。冬の厳しさを耐えるからこそ、春の開放感、高揚感がより増幅されるのではないのでしょうか。小誌が皆様方の目に留まる頃には桜の香も届くことでしょう。今後、ホームページともども小誌の充実を図っていきたく思っています。

編集委員長 住本 和博